

街へ、暮らしへ、広がる近鉄ネットワーク

証券コード9041



www.kintetsu.jp

2014年3月期決算説明会

2014年5月20日



- I. 2014/3月期 決算の概要
- II. 2015/3月期 業績予想
- III. 近鉄グループ経営計画 進捗状況

I . 2014 / 3月期 決算の概要



最近のトピックス

- ◆ 13年 9月 : 新株式の発行により674億円
(手取金ベース:670億円)を調達
- ◆ 14年 3月 : あべのハルカス全館グランドオープン
- ◆ 14年 3月 : 近鉄特急車両による阪神・近鉄直通の団体臨時列車
運行開始
- ◆ 14年 3月 : 花吉野ソーラー発電所 発電開始
大分高江ソーラー発電所 発電開始
- ◆ 14年 4月 : 鉄軌道運賃・料金改定 (平均2.855%)
- ◆ 14年10月 : しまかぜ 1編成増備 (予定)
- ◆ 15年 4月 : 会社分割による純粋持株会社制への移行 (予定)
(近鉄グループホールディングス(株)へ商号変更 (予定))

2014/3期 業績の概要(連結)

(億円、%)	2013/3期		2014/3期		前期比増減		増減要因	2013/11 時点見通
		構成比		構成比	金額	率(%)		
売上高	9,321	100.0	12,463	100.0	3,142	33.7	レジャー+2,906、 不動産+230	12,500
営業利益	474	5.1	546	4.4	71	15.1	不動産+40、レジャー+18	510
経常利益	350	3.8	468	3.8	117	33.5	支払利息減+18、 持分法投資利益+14	425
特別利益	116		162		45	39.3	工事負担金等受入額+50	
特別損失	163		240		76	46.9	工事負担金等圧縮額+50、 内部・八王子線関係+13、 固定資産除却損+12	
当期純利益	200	2.1	245	2.0	45	23.0		240
持分法投資利益	48		63		14	30.1		69
借入金・社債	12,767		11,871		▲ 896	▲ 7.0		12,100
EBITDA倍率	13.5倍		11.2倍				EBITDA:営業利益+ 減価償却費	11.7倍

(注)連結子会社数 58社(前期末比増減なし) 持分法適用会社数 6社(前期末比1社増加)

2014 / 3期 貸借対照表の主な増減(連結)

(億円、%)	2013 / 3期		2014 / 3期		比較 増減額
		構成比		構成比	
流動資産	3,491	18.1	3,571	18.2	79
固定資産	15,742	81.7	16,000	81.7	258
うち事業用資産	14,071		14,279		208
資産合計	19,258	100.0	19,591	100.0	333
流動負債	6,516	33.9	6,983	35.6	467
固定負債	10,577	54.9	9,561	48.8	▲1,015
負債合計	17,093	88.8	16,545	84.4	▲ 547
うち借入金・社債	12,767		11,871		▲ 896
純資産合計	2,164	11.2	3,045	15.6	880
うち利益剰余金	▲ 36		65		102
負債、純資産合計	19,258	100.0	19,591	100.0	333

《主な増減要因》

資産

- ・事業用固定資産 +208
(うち、設備投資 +767、減価償却▲510)
- ・投資有価証券 +135
- ・現金及び預金 +131
- ・販売土地建物 ▲134

負債

- ・未払金 +214
- ・借入金・社債 ▲896

純資産

- ・株式発行 +674
- ・利益剰余金 +102
- ・その他の包括利益累計額 +87
(うち退職給付に係る調整累計額▲39)

2014 / 3期 キャッシュフローの状況(連結)

(億円)	2013 / 3期	2014 / 3期	比較増減額
営業活動によるキャッシュフロー	787	924	136
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 494	▲ 417	77
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 248	▲ 377	▲ 129
現金及び現金同等物の期末残高	468	602	134
フリーキャッシュフロー(営業CF+投資CF)	293	507	213
財務活動のうち借入金・社債フロー計	▲ 121	▲ 921	▲ 799

《キャッシュフローの当期の状況と対前期比増減》

営業活動

- ◆ 税金等調整前当期純利益や、仕入債務の増減額の増加等により、前期比136億円増の924億円の収入

投資活動

- ◆ 固定資産の取得による支出の減や固定資産の売却による収入の増等により、前期比77億円の支出減である417億円の支出

財務活動

- ◆ 株式発行による収入はあったが、借入金の返済等を進めたため、前期比129億円の支出増である377億円の支出

現金及び現金同等物の期末残高

- ◆ 株式発行等により、前期比134億円増の602億円

2014 / 3期 セグメント別実績(連結)

(億円、%)	2013 / 3期	2014 / 3期	前期比増減	
	売上高	売上高		
	営業利益 (営業利益率)	営業利益 (営業利益率)	金額	率
運 輸	2,138	2,225	86	4.1
	296 (13.9)	303 (13.6)	7	2.4
不 動 産	1,363	1,593	230	16.9
	81 (6.0)	122 (7.7)	40	49.3
流 通	3,794	3,820	25	0.7
	45 (1.2)	48 (1.3)	2	5.4
ホ テ ル ・ レ ジ ャ ー	2,098	5,004	2,906	138.5
	39 (1.9)	57 (1.2)	18	46.9
そ の 他	135	143	8	6.2
	7 (5.8)	10 (7.4)	2	35.6
合 計	9,321	12,463	3,142	33.7
	474 (5.1)	546 (4.4)	71	15.1

2014 / 3期 運輸セグメント実績(連結)

(億円)		2013 / 3期	2014 / 3期	前期比増減	率(%)
売	上 高	2,138	2,225	86	4.1
	鉄 軌 道 事 業	1,540	1,583	42	2.8
	バ ス 事 業	339	343	3	1.2
	タ ク シ ー 業	110	115	4	4.3
	交 通 広 告 業	84	89	5	6.4
	鉄道施設整備業	232	254	22	9.5
	海 運 業	19	20	1	6.0
	レ ン タ カ ー 業	30	31	0	1.1
	消 去	▲ 219	▲ 212	6	
営 業 利 益		296	303	7	2.4

■ 主な増減要因

鉄軌道部門において、伊勢神宮式年遷宮による利用者の増加や定期券等の消費税率引上げ前の駆け込み購入もあり増収増益

2014 / 3期 不動産セグメント実績(連結)

(億円)		2013 / 3期	2014 / 3期	前期比増減	率(%)
売 上 高		1,363	1,593	230	16.9
	不 動 産 販 売 業	910	1,003	92	10.2
	不 動 産 賃 貸 業	187	222	34	18.4
	不 動 産 管 理 業	313	426	112	36.1
	消 去	▲ 48	▲ 58	▲ 10	
営 業 利 益		81	122	40	49.3

主な増減要因

不動産販売部門において、マンション販売や宅地分譲等が好調に推移したため増収増益
 不動産管理部門は、ビルメンテナンス事業の再編に伴い、ミディ総合管理が百貨店部門から不動産管理部門へ移管されたため増収

2014 / 3期 流通セグメント実績(連結)

(億円)		2013 / 3期	2014 / 3期	前期比増減	率(%)
売	上 高	3,794	3,820	25	0.7
	百貨店業	2,758	2,756	▲ 2	▲ 0.1
	ストア・飲食業	1,049	1,081	32	3.1
	消 去	▲ 12	▲ 16	▲ 4	
営業利益		45	48	2	5.4

主な増減要因

百貨店部門では、あべのハルカス近鉄本店タワー館の開業効果はあったものの、不採算店舗の閉鎖等により減収

ストア・飲食部門では、駅構内売店のファミリーマート店舗への転換等により増収

2014 / 3期 ホテル・レジャーセグメント実績(連結)

(億円)			2013 / 3期	2014 / 3期	前期比増減	率(%)
売	上	高	2,098	5,004	2,906	138.5
	ホ	テ ル 業	463	489	26	5.6
	旅	行 業	1,495	4,368	2,873	192.1
	映	画 業	31	32	1	3.4
	旅館・レジャー施設業		108	115	7	6.9
	消	去	—	▲ 1	▲ 1	
営 業 損 益			39	57	18	46.9

■ 主な増減要因

旅行部門において、KNT-CTホールディングス株の新規連結により増収となり、のれんの償却終了もあり増益

2014 / 3期 設備投資・減価償却費(連結)

(億円)		2013 / 3期	2014 / 3期	比較増減額
設 備 投 資		602	767	164
	運 輸	239	214	▲ 24
	不 動 産	246	165	▲ 81
	流 通	68	248	179
	ホ テ ル ・ レ ジ ャ ー	32	118	86
減 価 償 却 費		472	510	37
E B I T D A		947	1,056	109

■ 主な増減要因

- 運輸 : (前年)新型観光特急「しまかぜ」新造
- 不動産 : あべのハルカス設備投資額減
- 流通 : あべのハルカス近鉄本店タワー館 設備投資額増
- ホテル・レジャー : (本年)「大阪マリオット都ホテル」建設

2014 / 3期 業績の概要(単体)

(億円:%)	2013 / 3期		2014 / 3期		前期比増減	
		構成比		構成比	金額	率(%)
営業収益	2,664	100.0	2,794	100.0	130	4.9
鉄軌道事業	1,536		1,579		43	2.8
付帯事業	1,128		1,214		86	7.7
営業利益	348	13.0	367	13.1	18	5.3
鉄軌道事業	279		281		2	0.9
付帯事業	69		85		15	23.1
経常利益	212	8.0	247	8.9	35	16.5
特別利益	75		132		57	76.6
特別損失	101		166		64	63.4
当期純利益	119	4.5	148	5.3	28	23.9

Ⅱ. 2015 / 3月期 業績予想



2015 / 3期 業績予想(連結)

(億円、%)	2014 / 3期 実績		2015 / 3期 予想		前期比増減	
		構成比		構成比	金額	率(%)
売上高	12,463	100.0	12,900	100.0	436	3.5
営業利益	546	4.4	600	4.7	53	9.8
経常利益	468	3.8	480	3.7	11	2.5
当期純利益	245	2.0	230	1.8	▲ 15	▲ 6.5

(億円)	2014 / 3期 実績	2015 / 3期 予想	比較増減額
設備投資	767	480	▲ 287
運輸	214	280	65
不動産	165	40	▲ 125
流通	248	60	▲ 188
ホテル・レジャー	118	80	▲ 38
減価償却費	510	540	29

借入金・社債残高	11,871	11,700	▲ 171
E B I T D A 倍率	11.2倍	10.3倍	

2015 / 3期 セグメント別予想(連結)

(億円、%)	2014 / 3期 実績	2015 / 3期 予想	前期比増減	
	売上高	売上高		
	営業利益 (営業利益率)	営業利益 (営業利益率)	金額	率(%)
運 輸	2,225	2,170	▲ 55	▲ 2.5
	303 (13.6)	251 (11.6)	▲ 52	▲ 17.4
不 動 産	1,593	1,620	26	1.7
	122 (7.7)	150 (9.3)	27	22.9
流 通	3,820	4,220	399	10.5
	48 (1.3)	97 (2.3)	48	100.8
ホテル・レジャー	5,004	5,140	135	2.7
	57 (1.2)	82 (1.6)	24	41.4
そ の 他	143	140	▲ 3	▲ 2.6
	10 (7.4)	13 (9.3)	2	22.8
合 計	12,463	12,900	436	3.5
	546 (4.4)	600 (4.7)	53	9.8

主な増減要因

運輸 : 伊勢神宮式年遷宮による増収の反動や前期末の定期券の駆け込み購入の反動により減収減益

流通 : あべのハルカス近鉄本店の開業により増収増益

ホテル・レジャー : 旅行部門の増収や大阪マリオット都ホテル開業により増収増益

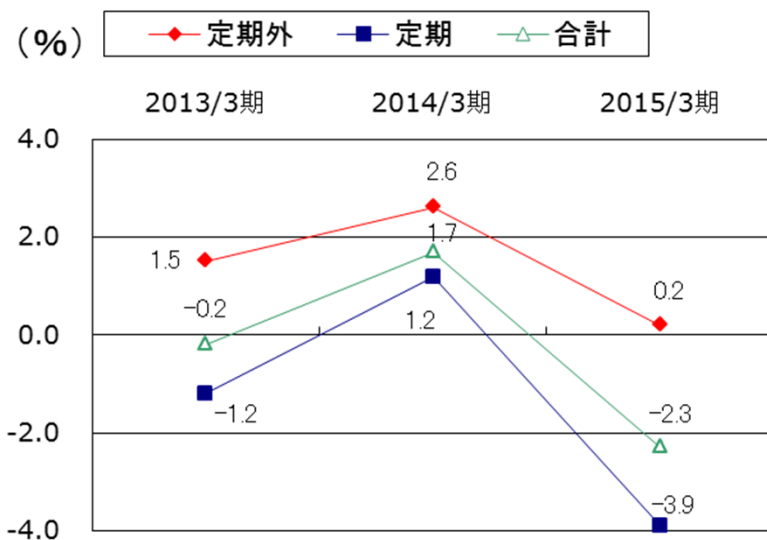
2015 / 3期 業績予想(単体)

(億円:%)	2014 / 3期 実績		2015 / 3期 予想		前期比増減	
		構成比		構成比	金額	率(%)
営業収益	2,794	100.0	2,970	100.0	175	6.3
鉄軌道事業	1,579		1,535		▲ 44	▲ 2.8
付帯事業	1,214		1,435		220	18.1
営業利益	367	13.1	370	12.5	2	0.8
鉄軌道事業	281		235		▲ 46	▲ 16.7
付帯事業	85		135		49	58.6
経常利益	247	8.9	250	8.4	2	0.9
当期純利益	148	5.3	130	4.4	▲ 18	▲ 12.2

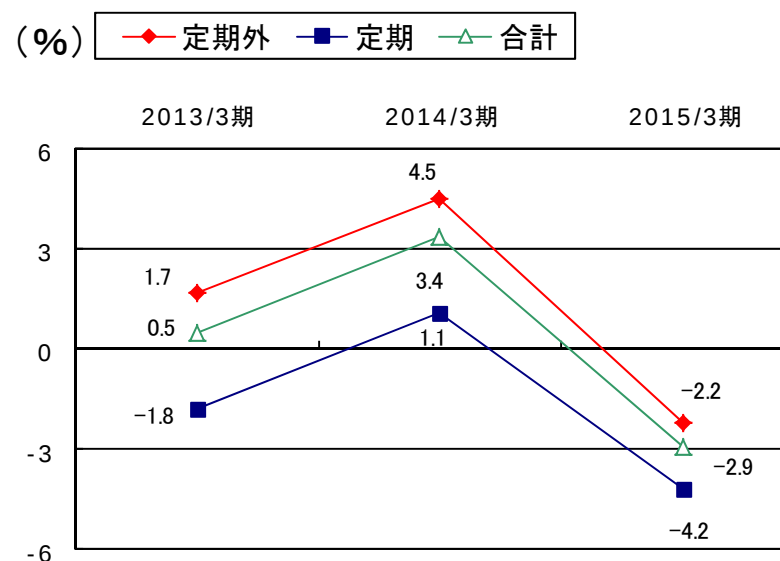
【ご参考】鉄道運輸成績の実績および予想

(近畿日本鉄道単体)		2013/3期		2014/3期		2015/3期	
		実績	前期比	実績	前期比	予想	前年比
旅客人員 (百万人:%)	定期外	226	1.5	232	2.6	233	0.2
	定 期	338	▲ 1.2	342	1.2	328	▲ 3.9
	計	565	▲ 0.2	574	1.7	561	▲ 2.3
旅客収入 (億円:%)	定期外	974	1.7	1,018	4.5	996	▲ 2.2
	定 期	475	▲ 1.8	480	1.1	459	▲ 4.2
	計	1,449	0.5	1,498	3.4	1,456	▲ 2.9

＜旅客人員 前年比の推移＞



＜旅客収入 前年比の推移＞





Ⅲ. 近鉄グループ経営計画 (2010年度～2014年度) の進捗状況

経営計画の概要① 期間と位置付け

阿部野橋ターミナルビル(あべのハルカス)が完成する2014年までを「基盤強化期」と位置付け、その間に各種プロジェクトを着実に実現すると共に、構造改革を進め、新たな収益基盤の確立に向けた事業創出を図る。



経営計画の概要② 経営数値目標

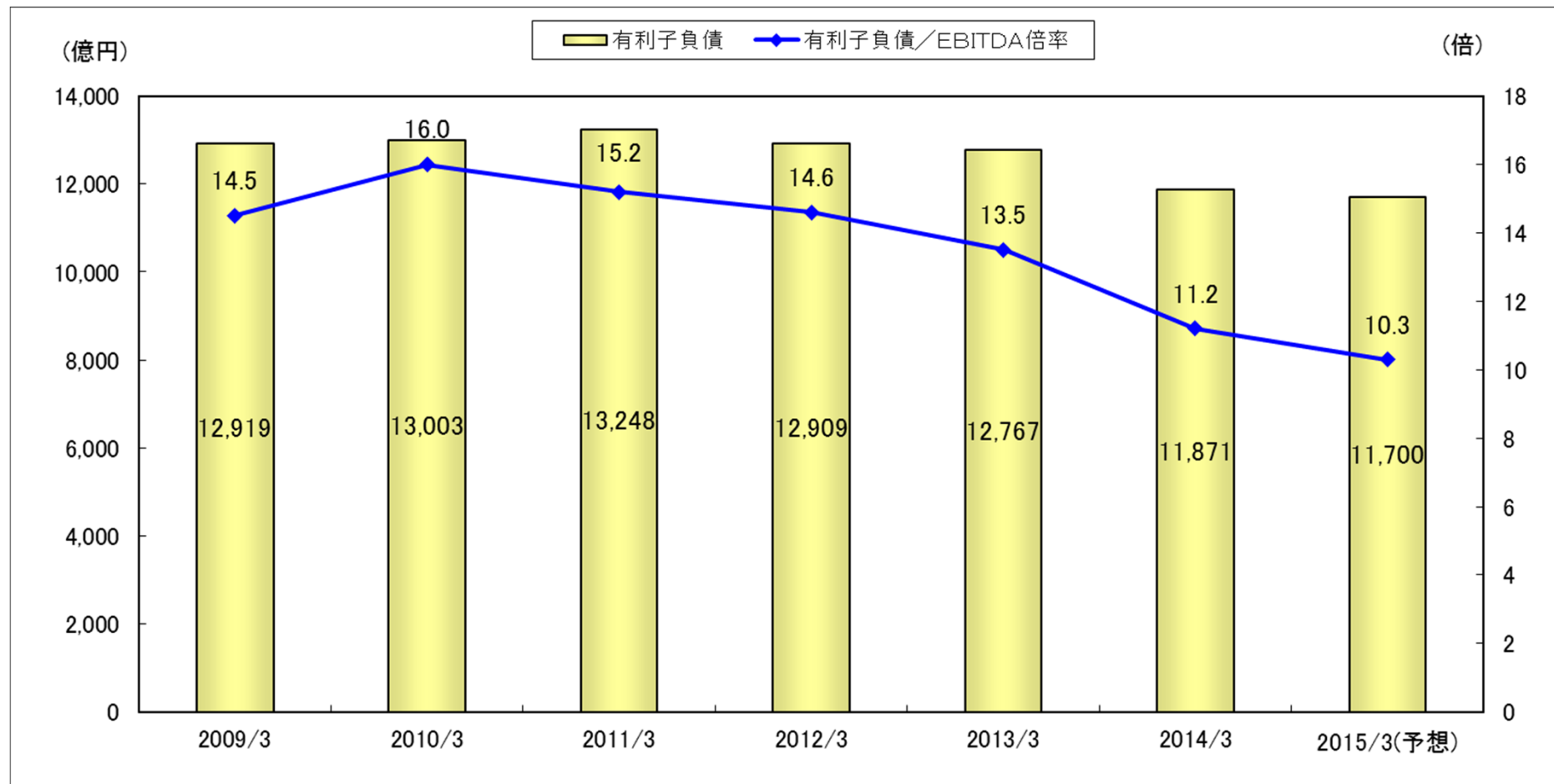
あべのハルカスが完成し、経営計画最終年度である2015／3期は、経営目標数値の全項目達成を目指す。

	2011/3 実 績	2012/3 実 績	2013/3 実 績	2014/3 実 績	2015/3 予 想	2015/3 経営計画目標
連結 営業収益	9,600億円	9,427億円	9,321億円	1兆2,463億円	1兆2,900億円	1兆1,000億円
連結 営業利益	399億円	402億円	474億円	546億円	600億円	600億円
連結 当期純利益	143億円	86億円	200億円	245億円	230億円	200億円
連結 有利子負債	1兆3,248億円	1兆2,909億円	1兆2,767億円	1兆1,871億円	1兆1,700億円	1兆2,800億円
EBITDA倍率	15.2倍	14.6倍	13.5倍	11.2倍	10.3倍	11.0倍

(EBITDA = 営業利益 + 減価償却費)

経営計画の概要③ 有利子負債の削減

キャッシュフローによる有利子負債削減を進めており、経営計画最終年度の2015／3期には、目標の有利子負債残高1兆2,800億円に対して1兆1,700億円、有利子負債／EBITDA倍率11倍に対して10.3倍を見込んでいる。



経営計画の概要④ セグメント別営業利益の推移

あべのハルカスの開業や利益創出力の強化により、不動産、流通、ホテル・レジャーセグメントは、営業利益増加を見込み、全体として600億円の営業利益を確保。

運 輸

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3 (予想)
営業利益	288	273	296	303	251
売上高 営業利益率	13.2%	12.9%	13.9%	13.6%	11.6%

鉄道収益は減少するものの、事業構造改革等の実施により、消費税や電気料金の影響を除いた所期の営業利益は確保

不 動 産

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3 (予想)
営業利益	68	81	81	122	150
売上高 営業利益率	4.9%	5.9%	6.0%	7.7%	9.3%

あべのハルカス効果のほか、マンション販売において高利益率物件へのシフトが進むことにより、セグメント全体の利益率向上

流 通

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3 (予想)
営業利益	36	37	45	48	97
売上高 営業利益率	0.9%	0.9%	1.2%	1.3%	2.3%

あべのハルカス効果を中心に、営業利益、営業利益率ともに向上

ホテル・レジャー

(億円)

	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3	2015/3 (予想)
営業利益	△ 2	△ 1	39	57	82
売上高 営業利益率	△ 0.1%	△ 0.1%	1.9%	1.2%	1.6%

ホテル収益の震災前水準への回復やクラブツーリズムの利益貢献(2014/3-2Qでのれん償却終了)、志摩スペイン村の運営効率化による利益水準安定化

※その他セグメント等で、2014/3営業利益約14億円、2015/3営業利益約20億円

「あべのハルカス」① 百貨店・ホテル・オフィス等概要

大阪マリオット都ホテル

○マリオットのホテルと、都ホテルのおもてなしを融合した高品質のサービス



オフィス

○IT環境や照明、空調などに最先端の設備を採用



○貸会議室やカフェテリア、保育所、オフィスビル内の医療施設としては、日本最大級のメディカルフロアなど働く人々へのサポート施設も充実

ハルカス300(展望台)

- 58階は三層吹き抜け構造の光と風が心地よい屋外広場
- 最上階60階は大阪平野を一望できる東西南北360° ガラス張りの屋内回廊
- 近鉄百貨店の福袋商品として、特別にプランニングした結婚式を開催するなどイベントを強化



あべのハルカス美術館

○国宝や重要文化財の展示も可能な本格的な「都市型美術館」

百貨店(あべのハルカス近鉄本店)

○日本最大(100,000㎡)の業態融合型百貨店完成



「あべのハルカス」② グランドオープン後の状況

「あべのハルカス」グランドオープン後の来館者は、当初計画を上回り、順調な滑り出し。

○あべのハルカスの来館者

3月7日から3月31日(開業25日間)までの来館者

356万人(1日平均14万人超)

ハルカス300 (展望台)	オープン以来多くのお客様が来館、特にGW後半(5月3～6日)は、 1日1万人を超えるお客様となった
大阪マリOTT 都ホテル	3月の客室稼働率は約8割、57Fレストラン「ZK」は、6月までの週末は、 ほぼ予約が埋まっている状況
オフィス	入居率9割超
百貨店	グランドオープン後(3月)は、1日平均13万人が来館

鉄道の乗降人員は近鉄大阪阿部野橋駅で約2.7%、JR天王寺駅で約12.0%の増加となった(共に3/7～3/31の対前年比)



「あべのハルカス」③ 投資額・収支計画

グランドオープン(2014年春)初年度

(単位: 億円)

	近鉄グループ 合 計	近鉄整備分 (ビル・ホテル等) ※1	近鉄百貨店 整備分
投資額	1,300	※2 987	313
収支計画			
取扱高	1,530	※3 80	1,450
売上高	※4 1,290		1,210
(減価償却費)	(70)		
営業利益	90		
(EBITDA)	(160)		

※1 近鉄には、ホテル関係(近鉄ホテルシステムズ)を含む

※2 数値は、百貨店投資額を除く全ての投資額

※3 数値は、百貨店から収受する賃料を除く外部売上高

※4 数値は、百貨店の専門店部分を賃貸収入として計上し、連結相殺を考慮

鉄道事業の強化① 需要喚起と筋肉質な体制づくり

付加価値向上による需要喚起と、筋肉質な体制による運営効率化を両立させる。

付加価値向上による需要喚起

◆観光特急「しまかぜ」

2013年3月の運行開始以降、連日ほぼ満席の盛況
(大阪難波・近鉄名古屋～賢島間)

⇒2014年10月、主に京都～賢島間を運行する1編成を増備予定



◆近鉄特急車両での、阪神～近鉄直通団体臨時列車

2014年3月より旅行会社によるツアーや社員旅行など団体のお客様向けに、三宮～伊勢志摩を中心に様々な区間で運行

運行開始以降、休日にこれまで10回のツアーを実施し、ほぼ完売



◆次世代の特急サービス

お客さまの目線にたって、ニーズに応じた車内設備やサービスを導入し、特急の付加価値の向上を図る。

筋肉質な体制づくり

◆運営体制の見直し

費用削減効果 約50億円

・駅無人化(概ね1日乗降3,000人以下の駅が対象)

無人駅数

2010年度末 32駅(実績)

2013年度末 83駅(実績)

2014年度末 88駅(予定)

・鉄軌道従業員数の削減

鉄軌道従業員数

2010年度末 7,964人(実績)

2013年度末 7,455人(実績)

2015年度末 7,250人(目標)

◆2012年3月 ダイヤ変更

列車本数(平日)4.8%削減による輸送の効率化と、特急増発・停車駅追加など利便性向上

費用削減効果 約8億円/年
増収効果 約2億円/年

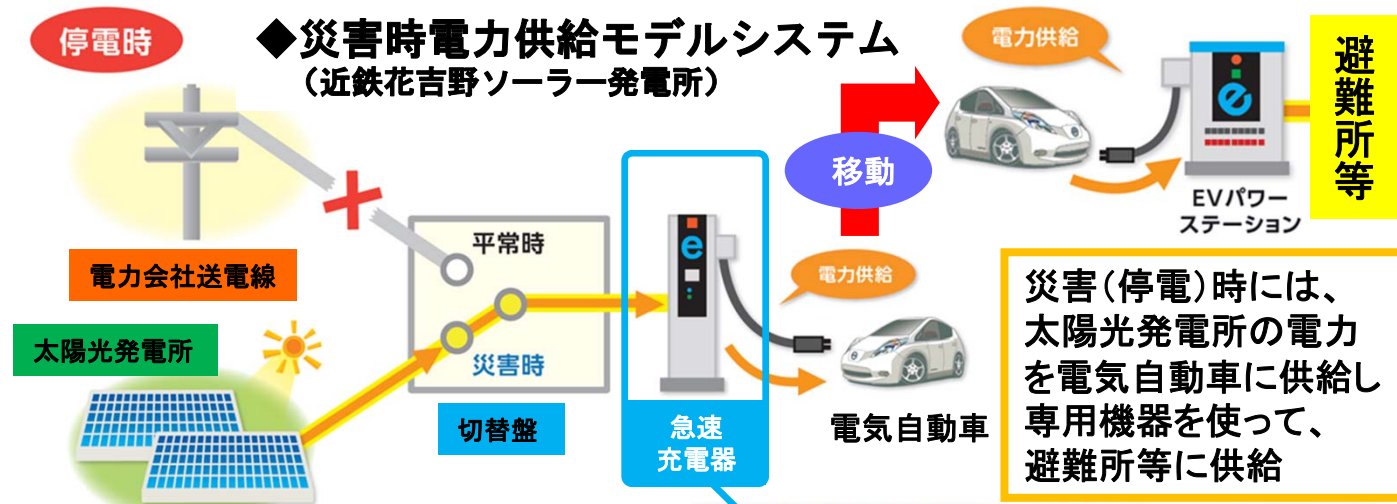
今後も利用状況や需要動向に応じた見直しを適宜実施

安全投資

年 度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
鉄道事業設備投資	174億円	181億円	195億円	175億円	230億円(予定)
うち、安全関連設備投資	138億円	134億円	151億円	128億円	151億円(予定)

成長のための取り組み 農業・太陽光発電ビジネスへの参入

農業ビジネスは順調に生産体制を確立。太陽光発電は、3箇所が運転開始。さらに、太陽光発電所を利用した災害時の避難所等への電力供給モデルシステムも完成。



近鉄花吉野ソーラー発電所

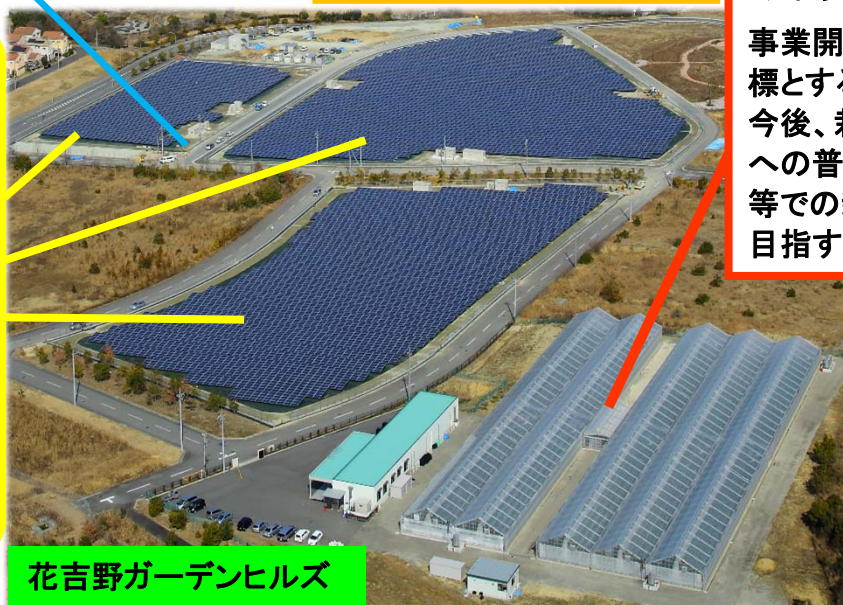
発電開始: 2014年3月

発電容量: 3MW

パネル容量: 4.2MW

(一般家庭1,060世帯の年間消費量相当)

このほか、年内には三重県伊賀市の発電所の稼働を予定しており、既に発電を開始しているものを含め計4箇所、一般家庭7,100世帯の1年間の使用量に相当する発電量となる予定



花吉野ガーデンヒルズ

近鉄ふあーむ花吉野

◆概要

2012年夏から、完全人工光型植物工場ではレタスやラディッシュを、農業用ハウスでは糖度の高いトマトを生産し、毎年収穫量を増やしている一方、当社グループのスーパーマーケット、ホテル、レストラン等へ安定的に供給している。

◆収支の見通し、今後の展開

事業開始4年目での黒字化を目標とする。

今後、栽培ノウハウの沿線農家への普及・拡大や、鉄道高架下等での新たな植物工場の展開を目指す。



完全人工光型植物工場の内部の様子

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、計画数値と異なる可能性があることにご留意ください。又、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。



お問合せ先

経理部

Tel:06-6775-3465

Fax:06-6775-3691

Mail:ir-info@rw.kintetsu.co.jp